

本島中部及び周辺離島



座喜味城跡 (P40)

読谷村

嘉子納町

沖繩市

北谷町

北中城村

中村家住宅 (P36-37)

喜友名泉 (P38-39)

宜野湾市

小禄墓 (P42)

伊祖の高御墓 (P43)

浦添市

中城村

中城城跡 (P41)

西原町

那覇市

与那原町

那覇空港



道路凡例

-  国道
-  県道主要地方道
-  県道一般道
-  高速道路
-  市町村境界線

国指定重要文化財(昭47.5.15)

なか むら け じゅう たく
中村家住宅



観光客が
たくさん訪れて
いるね。



中村家は「大城安里」と呼ばれていたんだ。主屋が一番古くて最後に高倉が建てられたんだ。主屋の後ろには奥園もあって、昔の豪農の豊かな暮らしを知ることができるね。



中城間切の豪農が建てた18世紀の住宅



中村家住宅(正面:畜舎 右:主屋(ウフヤ) 左:高倉)

中村家は中城間切の地頭代(ジトウデー)を勤めた家柄です。この地方の豪農で初代比嘉親雲上がこの地に屋敷を構えたと伝えられています。現在の住宅は三代目が18世紀中頃に建築したと推定されています。創建当初の屋根は竹茅葺きでしたが、主屋(ウフヤ)は七代前後に瓦葺きに改められました。現在の建物は全て寄棟造の本瓦葺きで、使用されている木材はイヌマキ(チャーギ)、モッコク(イーク)等です。

敷地は南に面する傾斜地を切り開いて造

成され、東西と北面は土留めの石積み、南側に石を築いて門を設けています。また、正面に布積みのヒンプン、周囲をフクギで囲み、台風などに備えています。主屋(ウフヤ)は中央部のやや北よりに配し、南東側にアサギ、南側西寄りに高倉、北西にフル、高倉と畜舎の間の南寄りに井戸(カー)を配置してあります。当時の屋敷構えがそのまま残っており、沖縄における18世紀の建築様式を知る上で重要な文化財です。





高倉(左)と主屋(ウフヤ)(右)



主屋(ウフヤ)(右)とアサギ(左)



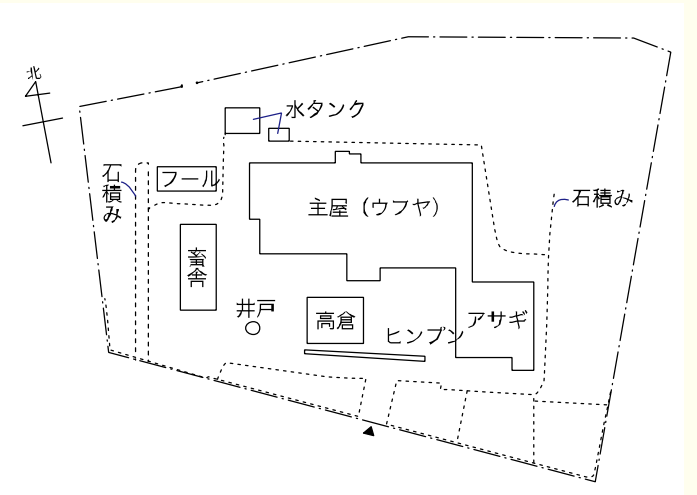
主屋(ウフヤ)



アサギ(奥のつきあたり)



フール



26°17'23.6"N 127°48'02.2"E



喜友名泉



宜野湾市喜友名の
人々が大切に
守り続けて
きたんだね。

子どもが生まれたら、このカーの水を産湯に使い、正月には若水を汲み、飲み水や洗濯、水浴び、牛馬の水浴びなどにも使ったんだ。人がじくなった時にはこのカーの水で体を清めたりもしたんだよ。それだけ喜友名の入たるの生活には欠かせない泉(カ)だったんだ。



喜友名の人々が生涯にわたり利用した大切な泉(カー)



■ウフガー(男性用)

喜友名泉は喜友名の米軍基地内にあり、1889(明治22)年に建造された井戸(カー)です。水量は豊富で、喜友名集落の簡易水道として利用されています。集落からの高低差が25mあり、約100mの下り坂が井戸(カー)まで曲線的に続きます。正面から向かって左

側の井戸(カー)は男性用でウフガー、右側の井戸(カー)は女性用でカークワーと言います。

ウフガーは牛馬の水浴や豚の洗浄、カークワーは飲料水や洗濯に使われました。

ウフガーとカークワーは1mを越す石灰岩の切石を組み合わせた堅固な造りです。





■カークウー(女性用)



(写真提供: 宜野湾市教育委員会文化課)

※見学の際には宜野湾市役所 文化課までお問い合わせください。
 26°17'16.2"N 127°45'37.4"E

県指定有形文化財(昭31.2.22)



石垣が曲線を描いていて、とても美しいね。



北山を監視する目的で、護佐丸が築いたと伝わっているよ。近くにあった山田城から石材を運んだんだけど、その山田城には、取り壊された石垣の跡も見つかっているんだ。コンタンザミュージアムには座喜味城跡の模型なども展示されているから、ぜひ見に行ってみてね。



座喜味城跡



護佐丸が築いた世界遺産のグスク



座喜味城跡



城壁



礎石が残る主郭

座喜味集落の北に位置する座喜味城跡は、西海岸一帯や東シナ海の島々を見渡す標高125mの丘の上にあります。沖縄の城の大半が石灰岩を基盤とする台地や丘陵に築かれているのに対し、座喜味城は土の上に築かれているとても珍しい城跡です。築城は15世紀前半頃で、座喜味城の北東にあった山田城の城主・護佐丸が北山監守の頃に山田城を取り壊し、その石材を運ばせて造りました。城は主郭と二の郭からなります。城壁は琉球石灰岩による相方積みで、アーチ門とその両脇は整然とした布積みになっています。城門はアーチ門形式が用いられた最初のものといわれています。



※問い合わせは 26°24'30.2"N 127°44'30.1"E
世界遺産座喜味城跡コンタンザミュージアム
(詳細はP225参照)





このグスクも
世界遺産に登録
されているんだね。

19世紀中頃に琉球を訪れたバ
リ一行の探検隊が、その美
しさに感嘆したと記録に残っ
ているよ。



なか ぐすく じょう あと
中城城跡



**間切番所や村役場としても使われた
沖縄を代表する大型グスク**



中城城跡



一の郭拱門



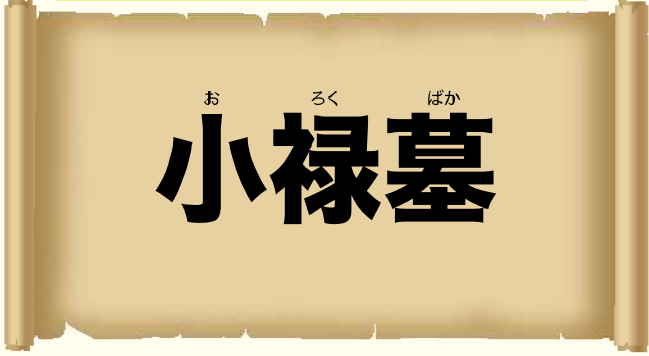
裏門

沖縄島中部の中城湾に面した高台にある中城城跡には、県内の城跡の中で最も保存状態のよい城壁があります。6つの郭から成る連郭式の山城で、先中城按司の居城であったとも言われています。1440(正統5)年に護佐丸が座喜味城から中城城に移る際、周辺の城壁を増築したと言われています。城壁は一部に野面積みが見られますが、アーチ門を含む大部分は琉球石灰岩の切石積みになっています。布積み主体の城壁を持つ郭と、相方積み主体の郭があり、築城年代が異なるのではという見方もあります。尚泰久王時代の1458(天順2)年、勝連城の阿麻和利によって護佐丸は滅ぼされ、中城城は王の直轄となりました。第二尚氏の時代は王子の居城となり、のちに中城間切の番所や村役場が置かれました。当時の遺構を多く残し、その技法や構造は沖縄の築城史上、注目すべき城跡です。



※問い合わせは中城城跡共同管理協議会 26°17'02.4"N 127°48'05.0"E
TEL:098-935-5179まで





墓口がとても大きいね。

昔々の墓口の大きさは、高さ1.36m、幅は0.8mだけど、奥を入れる時には、墓口を高さ2.4m、幅を1.7mまで開けたんだ。



1494年頃造られた古い形式の墓



小禄墓(正面)



小禄墓は、嘉数後原の丘陵北側の断崖下に横穴をあけ、前面に琉球石灰岩を積み上げた古い形式の墓です。

墓内の輝緑岩製の石厨子には「弘治七年おろく大やくもい六月吉日」と書かれています。弘治7年は西暦1494年にあたり、この銘文のひらがなは、沖縄最古のものと考えられています。この銘文の「おろく」から小禄墓と呼ばれています。尚真王代(在位:1477~1526年)に「おろく」というシマ(村落)を領した「大やくもい」という身分の高い人の墓と考えられます。墓の入口は葬式の際、肩にかつぐ輿がそのまま入るように工夫され、石垣には目地がついています。



(写真提供:宜野湾市教育委員会文化課)

※所在地が不明の場合は宜野湾市役所文化課までお問い合わせください。 26°15'30.3"N 127°44'29.5"E

古いお墓は
入口が広く
造られているんだね。



この墓のある伊祖は、「えぞのてだこ」と称された英祖王が生まれたところだと伝わっているんだ。またこの墓の下には約3500年前の浦添貝塚もあるんだ。先史時代から人が住んでいた場所なんだね。1971年にバイパス工事が行われることになって、高御墓と浦添貝塚は壊されることになったんだけど、保存運動が起こって守られたんだ。今は下をトンネルが通っているよ。



いそ
伊祖の
たか う はか
高御墓



英祖王の父・恵祖親方が眠る岩陰墓



墓の正面



伊祖の高御墓



崖を利用した岩陰墓

この墓は、伊祖真久原の丘陵地の中腹にあることから高御墓と呼ばれており、英祖王(在位：1260～1299年)の父、恵祖親方の遺骨が納められているといわれています。

崖の洞穴を利用した岩陰墓で、前面を琉球石灰岩の石垣で塞いでいます。墓の入口が広いのは古い形式であり、沖縄の墓の移り変わりを知る上で、極めて貴重な墓です。



26°15'18.3"N 127°43'30.4"E